

区分・種別	史跡		
名 称	まつやまじょうあと 松山城跡		
所 在 地	松山市丸之内・堀之内		
所 有 者	松山市ほか	管 理 団 体	松山市
指定年月日	昭和27年3月29日		
解 説	松山城は標高132m、周囲約4kmの独立丘陵「勝山」^{かつやま}を中心に築かれた平山城である。築城は、伊予正木^{まさき}（松前）の城主加藤嘉明^{かとうよしかき}が、20万石の居城として勝山を選び、慶長7（1602）年、普請奉行足立重信に命じて着工させた。足立はまず、湯山川^{ゆやまがわ}（石手川^{いしてがわ}）の流路を変えて城下を整備するとともに、山頂を削って本丸を設け、その西山腹を二の丸、その西麓の平地を三の丸として外周に堀を築いた。 慶長10（1605）年に本丸・三の丸が完成したといわれ、二の丸邸の完成とともに嘉明は入居したが、完成間近の寛永4（1627）年会津若松に転封になった。わずかに残った工事は次の蒲生忠知^{がもうただとも}によって同年完成された。 現在史跡に指定されているのは本丸・二の丸・三の丸跡で、本丸跡には天守をはじめとする21棟の建造物が国の重要文化財に指定されている。また、二の丸跡には、平成4（1992）年4月に「松山城二之丸史跡庭園」が整備された。		

